様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１１９２９

研究課題名（和文）専門看護師・認定看護師が必要とするフイジカルアセスメント能力向上のプログラム構築

研究課題名（英文）Programing of physical assessment　development of ability for CNS's and CN's

研究代表者
城生　弘美（JONO, Hiromi）

東海大学・医学部・教授

研究者番号：６０２４７３０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）： 2017年現在38単位CNS教育課程実施の69大学院のうち、ホームページ上でフィジカルアセスメントに関するシラバス内容・方法が明示されていた36大学院の授業目的・目標・教授方法・評価方法を分析した。また、関連機関病院施設の専門看護師4名、認定看護師14名の協力を得て、資格取得の動機、臨床現場で実践しているフィジカルアセスメントと異常早期発見のエピソード、今後の教育への要望に関する面接調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
1990年代後半から専門看護師や認定看護師教育が制度化し、多くの有資格看護師が輩出されている。また、2015年度以降は、特定行為のできる看護師教育が国をあげて育成が実施されている。これらの有資格の看護師教育には必ず「フィジカルアセスメント」が入っており、より高度な看護を実践する者の能力として求められ、目標が掲げられている。しかし、具体的な教育内容や方法についての方策は、個々の養成機関に任されているのが現状である。
　既に教育を行っている具体的内容の分析をし現状把握をすること、さらに有資格者にフィジカルアセスメントについて現場で必要とされる内容についての考えを把握することは重要である。

研究成果の概要（英文）： In 2017, 69 nursing graduate schools offerd the 38 credits’CNS course. Out of the 69, only the 36 schools published their syllabus about physical assessment on their websites. According to the sites , it made an analysis of class objects, education methods ,and evaluating methods.
The first step is to interview with 4 CNSs and 14CNs. They talked about having their motives for qualification acquisition , physical assessment in clinical practice ,episodes of abnormal condition ,and demands for the future of education.

研究分野： 基礎看護学

キーワード： 専門看護師　認定看護師　フィジカルアセスメント　シラバス　38単位専門看護師教育課程　ホームページ　看護系大学院

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

2009 年看護基礎教育の保健師助産師看護師養成所指定規則改正によりにおいて「フィジカルアセスメント」が強化すべき科目として導入された。修士課程の専門看護師（Certified Nurse Specialist：以下、CNS と称す）教育においても「臨床薬理学」「病態生理学」とともに「フィジカルアセスメント」は重要科目と位置づき、2018 年度以降は全ての CNS 教育において 38 単位化とともに必修の共通科目になった。

一方、2007 年に厚生労働省医政局長より都道府県知事あてに「医師および医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」が提示され、医師と看護師等の医療関係者との役割分担をより推進すべきであり、看護師の場合は「薬剤の投与量の調節」「静脈注射」「救急医療等における診療の優先順位の決定」「入院中の療養生活に関する対応」「患者・家族への説明」において、能力を研鑽しその専門性を発揮していくことが示された。さらに 2008 年には、日本学術会議「信頼に支えられた医療の実現－医療を崩壊させないために－」の要望において、現在医師のみが実施し得るとされている医療行為の一部について、看護師など、適切な教育を受け、必要な知識と能力を有する他の職種に委譲していくことについて速やかに検討すべきで、本当の意味でのチーム医療への体制変換が求められていると明言された。その後、2010 年厚生労働省「チーム医療の推進について」の検討会報告書において、一般の看護師であっても安全に実施できる医行為として想定される例が「検査等」「処置」「患者の状態に応じた薬剤の選択・使用」の項目に分かれて明示された。以上の経過を経て、2015 年に厚生労働省において、2025 年問題に向けての「特定行為に係る看護師の研修制度導入」が開始され、その中の共通教育科目に「フィジカルアセスメント」が位置づけられた。

以上のように医療社会の変化や少子高齢化に伴う複雑な健康問題を持った身体状況を抱える対象者の増加に応じた看護実践には、その基礎的能力として「フィジカルアセスメント」は欠かせないものであるという認識は一般的になったと言える。しかし、より高度な看護実践者にむけた「フィジカルアセスメント」とはどのようなレベルであり、どのように教育すべきかに関する議論は未だ始まったばかりである。

2012 年度までの科学研究費報告においては、看護基礎教育に導入されたフィジカルアセスメント教育の内容や講義時間、科目担当者の苦手意識や知識不足の実態、講義演習の組み立てに苦慮しているという実態の研究が多かった。また、苦慮している教育内容に示唆を示すミニマムエッセンシャルズの検討や看護師が求めている教育内容に関する調査研究などがみられた。2013 年度以降の研究においては、高度実践看護師の臨床推論・判断力強化をするための教育方法や看護基礎教育から一貫した判断力や推論をどのように教育するか等、看護基礎教育に加え、CNS 教育に関連した教育内容や教育方法の検討に関するテーマが見られるようになってきた。

しかし、CNS や認定看護師の有資格者を対象に、実践現場において必要なフィジカルアセスメントの実施状況や臨床判断に必要なフィジカルアセスメント教育に対する意見を踏まえた教育内容・教育方法に関する研究は多くはない。

２．研究の目的

（１）2016 年度現在、CNS 教育を 38 単位体制で実施している 69 の看護系大学院のうち、ホームページ上でシラバス内容が掲載されているものを対象とし、科目名、教育目的目標、授業形態、評価方法を分析し、現行の CNS 教育におけるフィジカルアセスメント教育の概要を把握することを目的とする。

（２）本研究機関と関連する 4 つの病院の専門看護師や認定看護師の有資格者を対象にフィジカルアセスメントについての看護基礎教育時代に受けた教授内容や方法について、看護実践現

場において活用しているフィジカルアセスメント、フィジカルアセスメントの教育に期待すること等について聞き取り調査を実施し、CNS あるいは認定看護師に必要なフィジカルアセスメント項目・内容について、提示することを目的とする。

３．研究の方法

（１）2016 年度現在、専門看護師教育 38 単位を日本看護系大学協議会から認定され実施している 69 大学院の修士課程のシラバスをホームページ上で検索し、その教育内容と教育方法に関する情報を得る。必要がある場合は、科目担当者に問い合わせ、より具体的な情報を得る。

（２）2017 年度本研究機関の倫理審査委員会の承認を得たのち、4 つの関連病院の施設管理者及び看護部責任者に面接調査研究協力の承諾を得た。その後、4 つの病院の看護部責任者を通して、CNS（18 名）と認定看護師（88 名）全員に研究の趣旨や協力内容を記した説明文書を配布することを依頼した。面接調査に協力が得られた場合は、上記説明文書に同封した承諾書と面接日時の相談をするための連絡方法の記載をされた文書を個別に返送してもらった。返送された順から、研究対象者と連絡を取り面接日時を決定していった。全ての研究協力者に面接時の録音の許可を得て、逐語録を作成した。

面接内容は、以下の骨子とし、その他は自由に語る半構成的面接方法とした。

①CNS や認定看護師の資格取得をしたいと思った動機やエピソード

②資格取得時教育における「フィジカルアセスメント」に関連する教育内容や教育方法で記憶にある事柄

③現在実践現場において行っているフィジカルアセスメント項目

④異常の早期発見や気づきのエピソード

⑤後輩のフィジカルアセスメント力や看護観察力を見ていて考えること

⑥フィジカルアセスメント教育への要望

面接期間は 2017 年 3 月～2018 年 7 月であった。

４．研究成果

（１）38 単位 CNS 教育課程を実施している看護系大学院は 69 大学院であった。このうち、共通科目 B に位置付けられたフィジカルアセスメント該当科目のシラバスをホームページから検索したところ、36 大学院（約 6 割）の資料が得られた。得られた情報を分析したところ、以下のことが示された。

①フィジカルアセスメントの科目名については、最も多かったのは「フィジカルアセスメント」22 大学院、次に「フィジカルアセスメント特論」3 大学院、「フィジカルアセスメント論」2 大学院であった。この他に「看護ヘルスアセスメント」「ライフスパンフィジカルアセスメント」「フィジカルアセスメント学」「アドバンストフィジカルアセスメント」「臨床診断学（フィジカルアセスメント）」「高度実践フィジカルアセスメント論」が各 1 大学院であった。

②フィジカルアセスメント科目の目的・概要に表記されたキーワードについて、38 単位 CNS 教育課程の共通科目 B の審査基準に示されている「複雑な健康問題をもった対象の身体状況について系統的に全身を審査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について教授する科目が設けられていること」にしたがい、表 1 のように分類し、記載されている言葉の延べ数で示した。「複雑な健康問題をもった対象」については、そのほとんどが審査基準通りであった。その他のキーワードとしては、様々な健康問題あるいは多様な健康問題であった。「系統的に全身を診査」については、「身体状況を診査」が 10 件で最も多く、次に「身体・精神状態を診査」

3 件、「包括的な診断法」「身体状態を系統的に診査」「身体のアセスメント」「系統的に診査」各 2 件であった。「臨床看護判断」については、「臨床判断」17 件が最も多かった。次に審査基準通りの「臨床看護判断」8 件、「臨床推論」「高度なアセスメント力」「臨床看護診断」「臨床判断能力」が各 2 件であった。「知識と技術」については、「知識と技術を習得」が 10 件、次に「フィジカルイグザミネーション技術」5 件、「必要な知識と技術」3 件、「技能知識を習得」「知識と包括的なフィジカルアセスメント技術」が各 2 件であった。

表 1 「フィジカルアセスメント」該当科目の目的・概要に表記された審査基準*に照らしたキーワード

審査基準	キーワード	表記延べ数
複雑な健康問題をもった対象	複雑な健康問題をもつ(もった）対象	26
系統的に全身を診査	身体状況を診査	10
	身体・精神状態を診査	3
	包括的な診断法	2
	身体状況を系統的に診査	2
	身体のアセスメント	2
	系統的に診査	2
臨床看護判断	臨床判断	17
	臨床看護判断	8
	臨床推論	2
	高度なアセスメント能力	2
	臨床看護診断	2
	臨床判断能力	2
知識と技術	知識と技術を習得	10
	フィジカルイグザミネーション技術	5
	必要な知識と技術	3
	技能知識を習得	2
	知識と包括的なフィジカルアセスメント技術	2

*審査基準：一般社団法人日本看護系大学協議会による「高度実践看護師教育課程診査基準（専門看護師 38 単位）共通科目 B 診査基準　「フィジカルアセスメント」の基準を示す

③フィジカルアセスメント科目の評価方法については、授業（講義と演習を含む）への参加状況（討議内容、発言、プレゼンテーション資料作成やその内容）、レポート、筆記試験、実技試験等により行われ、最も多かったのは、授業への参加状況とレポート（24 大学院）であった。

（２）4 つの病院の看護部責任者を通して、CNS（18 名）と認定看護師（88 名）全員に研究の趣旨や協力内容を記した説明文書を配布した結果、面接調査に協力が得られたのは、CNS4 名、認定看護師 14 名であった。逐語録は全て作成終了し、現在面接内容に従っての語りの分類を実施しているところである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　1 件）

①城生　弘美、池内　眞弓、森　祥子、森屋　宏美、籠谷　恵、矢口　菜穂、38 単位専門看護師教育課程におけるフィジカルアセスメント教育の実態把握－各大学院のホームページの検索結果から－、東海大学健康科学部紀要、23 巻、121-127、2017、査読有

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計　1　件）
①城生　弘美他編、メディカ出版、ナーシング・グラフィカ基礎看護学②
ヘルスアセスメント、2018、350 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：池内　眞弓
ローマ字氏名：IKEUCHI, Mayumi
研究協力者氏名：森　祥子
ローマ字氏名：MORI,Sachiko

研究協力者氏名：森屋　宏美
ローマ字氏名：MORIYA, Hiromi

研究協力者氏名：籠谷　恵
ローマ字氏名：KAGOTANI,Megumi

研究協力者氏名：加茂　敦子
ローマ字氏名：KAMO, Atsuko

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。